

千葉歴史の散歩道

〔酒々井町墨古沢遺跡〕 環状ブロック群の“謎”

千葉県教育庁教育振興部文化財課埋蔵文化財班
主任上席文化財主事 永塚 俊司



酒々井町にある墨古沢遺跡は、約3万4千年前の後期旧石器時代前半期の遺跡で、当時の人たちが道具として使用した石器（槍先に用いられた狩猟具など）や石器製作の際に飛び散った石のかけらが大量に出土した。石器は、数メートルの範囲に集中して見つかり（以下、石器ブロックと呼ぶ）、複数の石器ブロックが、全体として南北70m、東西60mの範囲に環状に巡ることが判明した。

このように石器ブロックが環状に巡る特徴的な配置を示す石器群は「環状ブロック群」と呼ばれている。約3.7万～3.0万年前の日本列島各地に特徴的に現われ、現在までに北海道から九州にかけて150基近くの環状ブロック群が見つかったが、驚くべきことに、約半数が千葉県で見つかった。

発掘調査の結果、墨古沢遺跡では、環状ブロック群の東側の約6割が確実に残存していることが確認され、その重要性に鑑み、令和元年度、日本の後期旧石器時代を代表する環状ブロック群として初めて国史跡に指定されることとなった。（西側の約4割は東関東自動車道酒々井PA側に分布していたことが過去の発掘調査によって明らかとなっていた）

旧石器時代の人々は、複数家族を単位とした集団（バンド）で狩猟採集を生業とする移

動生活を送っていたものと考えられている。本格的な定住生活が始まるのは、土器や貝塚が登場する縄文時代以降のことである。

日本の旧石器時代の遺跡からは、石器以外の道具や動物の骨、住居跡の痕跡がほとんど見つかっていないため、当時の生活を復元することは非常に困難な作業であり、石器ブロックが環状を呈する理由にも諸説ある。

史跡指定を記念して、令和元年11月16日（土）に酒々井町中央公民館で開催される講演会は、墨古沢遺跡で見つかった環状ブロック群について、専門家による最新の研究成果を聞くことができる格好の機会である。世界でも例を見ない環状ブロック群の“謎”に迫る講演会に是非足を運んでいただきたい。

何人ぐらいの人が、どのくらいの期間、ここで生活していたの？



石器ブロックはなぜ環状となるの？

どんな家に住んでいたの？

千葉教育 菊（No. 658）令和2年2月12日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター（代表） 秋元 大輔

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204

URL <http://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所 株式会社白樺写真工芸

〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102-5 TEL 043-423-1101